

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 福岡市博多区東公園7番7号
管理機関名 福岡県教育委員会
代表者名 教育長 城戸 秀明 印

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年6月3日(契約締結日)～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学 校 名 福岡県立香椎高等学校

学校長名 矢ヶ崎 裕和

類 型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

ファッション都市福岡「ファイナルディステーションプラン2030」

4 研究開発概要

福岡市は成長著しいアジア諸国にわが国で最も近く、経済や文化、環境など様々な分野で緊密な交流を行ってきた歴史があり、今後もアジアの活力を取り込み、アジアを向いた一大拠点としてその役割を果たしながら、アジアとともに発展していくことが可能な地理的条件と優れたネットワークを有している。しかし、人口が増加しているにもかかわらず、ファッション業界は、東京一極集中で空洞化が進み、地場産業は有能な人材を雇用することができていない。本校の卒業生の中には、地域を愛し、福岡で働きたいという者が多くいるが、ファッションに係る専門的分野の雇用がないために福岡での活躍ができないものもいる。

このような状況を解決するために、地元大学、地場産業などと連携・協働することで課題解決を図り、地元福岡のファッション業界における継続可能な雇用を生み出す環境を作りたいと考えた。

そこで、本校が核となり、福岡県、福岡市、地元大学、福岡商工会議所や地場産業等、多様な業界のプロフェッショナル人材を参集したコンソーシアムを設置して「福岡ファッションインキュベータ」を創設することにより、商品開発から流通・販売までの流れを探求するとともに、福岡を愛する高度な資質・能力を身に付けた人材を育成することのできるシステムづくりを行う。

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

所 属・職 名	氏 名
(一社法) 教育ソリューション研究協議会 非認知能力推進育成アドバイザー	長谷川絵美
公立大学法人福岡女子大学 教授	森 邦昭
福岡菅公学生服株式会社 常務取締役	小坂 健一
BENLY 株式会社 執行役員九州エリア支部長	吉田 透
(一社法) 進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	西田 将浩
福岡県教育庁教育振興部高校教育課 課長	田中 直喜
福岡県立香椎高等学校 校長	矢ヶ崎裕和

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
7月22日	<ul style="list-style-type: none"> 各団体・個人への委嘱を行い、コンソーシアムを組織化。 管理組織1、実施校1、外部機関5の計7団体で構成。
7月24日 (第1回)	<p>■開会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施校校長挨拶／管理機関挨拶／メンバー紹介／日程説明 <p>■説明 事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の概要及び目指す到達目標等を説明し、改めて事業への協力を要請した。 <p>■報告 第1回運営指導委員会 議事報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 先に開催した、第1回運営指導委員会で得られた事業構想や目標、3年間の事業振興計画等について報告した。 <p>■議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門的職業人の育成について <ul style="list-style-type: none"> 本事業が目指す育成すべき人物像を提示し、各団体から意見を聴取した。 福岡ファッションインキュベータの創設に向けて <ul style="list-style-type: none"> 目的、目標、運営組織、実施形態等の構想について説明し、意見を聴取した。 本校の特徴的な授業説明 <ul style="list-style-type: none"> 本事業に最も関連のある、専門科目「ファッションデザイン」の3年間の学習内容を提示し、3年間の授業概要を説明
9月17日 (第2回)	<p>■報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回議事について <p>■議事 カリキュラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門科目の3年間の学習内容を検証し、商品企画、縫製、経営、販売の4分野で実施している外部講師を活用した専門性が高い授業体制のバランスについて協議した。 教科横断的取組として、数学を用いてマーケティング学習を行う「マーケティング×数学」の提案が出された。
11月5日 (第3回)	<p>■報告 被服系学科および本校ファッションデザイン科の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーに被服系学科の現状及び本校ファッションデザイン科の状況に理解を得る目的で、以下の点について情報提供し共有化を図った。 ○服飾関係学科及び家庭に関する学科等卒業生進路の全国的状況及び本校ファッションデザイン科卒業生の進路状況

	<p>○ファッションデザイン科在校生の進路意識調査結果 ○高校魅力化システムによる在校生の自己能力認識結果 ○ファッションデザイン科における外部講師招聘授業等状況</p> <p>■議事</p> <p>1 今後の授業方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校ファッションデザイン科の進路や生徒の現状や、全国的な傾向をもとに、今後の授業方針について協議 <p>2 特別授業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品企画、縫製、経営、販売の4分野で実施している校外実習や外部講師等による授業の過不足等について協議
<p>12月18日 (第4回)</p>	<p>■報告</p> <p>1 特別プログラムの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡ブライダル&ホテル・観光専門学校の名誉学院長である桂 由美氏による特別講義への生徒参加について報告 <p>2 地域との連携プログラムの進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香椎宮の敷地内全体をファッションショーの候補地とし、生徒が企画し、香椎宮にプレゼンテーションして決定できる仕組みの構築を報告 ・本校近郊の古賀市にある社会福祉施設との協働により、商品企画及び商品製作の実施計画を報告 <p>■議事</p> <p>1 目指す人材に向けたカリキュラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各メンバーより意見を聴取し、協議した結果、研究推進委員会が原案を提出し、再度協議 <p>2 インキュベータが担う機能及び構成団体等構想について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育ソリューション研究協議会の長谷川氏より提案されたインキュベータ構想について協議
<p>1月27日 (第5回)</p>	<p>■報告 2学年カナダ研修旅行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オタワ:shopify オタワ本社企業訪問/トロントインキュベーターにおけるデザイナーとのディスカッション/セネカカレッジでの学生との交流/東京一日暮里での作品素材の購入 <p>■議事</p> <p>1 特別授業によるカリキュラムの充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行で充実が必要と考えられる「経営」「販売」に関する授業及び目指す人材の育成に必要な資質や技能について調査し、その内容を含める。 <p>2 福岡ファッションインキュベータについて</p> <p>○インキュベータの在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行のカリキュラムで不足する部分を担う形から、現在実施している社会人講師招聘授業(県の事業)等の家庭科の教員による授業のみで担う事ができないものを全てをインキュベータ機能に含めることとした。 <p>○構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成企業は、本事業趣旨に賛同する企業・学校・個人等により構成する。 ・本事業が終了しても継続的にその機能を維持できるように、組織を構成する団体・個人等にとっても、有益性を持つ仕組みづくりを行う。
<p>2月6日 (第6回)</p> <p>・資料送付による意見聴取</p>	<p>■令和元年度事業内容及び令和2年度実施概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの協議で検討してきた、人材育成に関するカリキュラムと福岡ファッションインキュベータの創設に向けた各決定事項について意見を聴取した。 ・福岡ファッションインキュベータの令和2年11月創設をはじめ、次年度計画について意見を聴取した。

(2) カリキュラム開発等専門家について

①指定した人材（都度依頼し謝礼払い）

公立大学法人 福岡女子大学 教授 森 邦昭 氏

本校生徒の意識に関する分析結果から得られた、特徴的な「地域貢献意識の低さ」を改善するためのカリキュラムに関する意見を聴取した。また、事業目標を明確化するため、目指すべき人物像における技能や資質について、より具体的に設定するよう指導を行った。

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 6月 6日	ファッションデザイン科カリキュラムについて説明
令和元年 7月 24日	・会議において専門的知見からのカリキュラム構築に係る指導・助言及び協議実施
令和元年 9月 17日	
令和元年 11月 5日	
令和元年 12月 18日	
令和2年 1月 27日	

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材（都度依頼し謝礼払い）

ア 福岡菅公学生服株式会社 常務取締役 小坂 健一 氏

県内外の縫製・繊維業界の状況に係る現状について情報提供しながら、今後のファッション界において本校生徒が活躍できる可能性が高い分野について指導・助言を行った。

イ 株式会社 BENLY 執行役員 九州エリア支部長 吉田 透 氏

企業サイドから見た福岡ファッションインキュベータの魅力を高めるための指導・助言を行った。また、企業と学校を繋ぎ、本校における shopify のキックオフミーティングの開催や、2学年が実施したカナダ研修旅行に帯同し、地元の企業や学校との交渉を行い、プログラムの有効性を高めた。

②実施日程・実施内容

活動日程	活動内容
令和元年 7月 24日	・会議による指導・助言
令和元年 9月 17日	
令和元年 11月 5日	
令和元年 12月 18日	
令和元年 7月～1月	・カナダ研修旅行における現地視察予定会社との調整
令和元年 10月～12月	・学校における民間企業との連携事業計画・調整
令和元年 12月 13日	・学校における民間企業活動及び生徒への講義実施
令和2年 1月 8～14日	・カナダ研修旅行に帯同
令和2年 1月 27日	・会議による指導・助言

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
坂元美貴子	香蘭女子短期大学 教授 ファッション総合学科長	ファッション教育
横溝紳一郎	西南女学院大学 教授 学生部長	英語教育

大塚 知弘	日本経済大学経済学部教授 福岡キャンパス事業推進部長	経済学
相原 幸子	学校法人文化学園 文化服装学院 学院長	ファッション教育
柿島 由雄	ESMODJAPON ジェネラルディレクター	ファッション情報
桂 由美	滋慶文化学園 福岡プライダル&ホテル・観光専門学校 名誉学校長	デザイン
徳満 泰彰	Shopify Country Evangelist Shopify パートナーシップ兼事業開発部長	経営・流通支援
三ヶ田浩二	(一社法) 教育ソリューション研究協議会 キャリア教育デザイナー 地方創生ビジネスディベロッパー	キャリア教育
西田 将浩	(一社法) 進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	カリキュラム開発
橋本 輝夫	福岡県産業教育振興会家庭部会長 (福岡県立久留米筑水高等学校長)	研究・広報支援
西岡 潤史	福岡商工会議所産業振興部長 (福岡アジア拠点推進会議事務局)	研究・広報支援
山北 智子	福岡県商工部新事業支援課長	部局行政
田中 直喜	福岡県教育庁教育振興部高校教育課長	教育行政

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
7月17日 (第1回)	■説明 ・本校教育活動及びファッションデザイン科について説明 ・地域との協働による高等学校教育改革推進事業概要について説明 ■協議 ・令和元年度事業実施計画について指導・助言
2月14日 (第2回)	第2回会合 ■報告 ・令和元年度の生徒による活動内容及びコンソーシアムで協議してきた事業目標の概念・福岡ファッションインキュベータの在り方等について報告 ■協議 ・令和2年度事業計画として、福岡ファッションインキュベータの11月創設をはじめ、構成団体・企業・個人に求める理念等を協議し、指導・助言を得た。

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・校内の研究推進委員会への参加
- ・運営指導委員会及びコンソーシアムへの参加、指導・助言
- ・県の事業等における支援の実施

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・県の事業等による支援の実施
- ・特別講師等による授業研究による自校教諭実施への移行

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ア 日本経済大との高大連携協定（平成27年度）
- イ 香蘭女子短期大学との専門技術教育棟提携協定（平成29年度）
- ウ 菅公学生服株式会社との産学連携に関する協定（平成30年度）

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「ファッションデザイン」における商品開発演習			6 h	6 h								
科目「ファッションデザイン」における商品開発実習						2 h	6 h	24h	12h	3 h		
科目「服飾手芸」における商品製作実習	6 h	2 h						4 h	4 h			

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア カリキュラムの構築

地元の企業からは、ファッション業界が東京に一極集中し優秀な人材が集まらないという福岡のファッション業界の現状を、卒業生からは、福岡で働きたいが雇用がないという声を聞き、うまくマッチングできないかと考えた。

本校では、平成28年度から3年間、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの研究指定を受け、高度な資質・能力を育む産学接続型教育プログラムの開発を行い、外部協力機関と連携・協働して、ファッションショーを企画・運営したり（ファッションイベント企画・運営実習）、商品を企画・製造し販売を行う（ブランド開発実習）など、実践的な活動をカリキュラムの中に組み込むことができた。

このブランド開発実習を発展させ、「商品企画」「縫製」「経営」「販売」の4つの分野に分け、生徒の特性や進路希望に合わせて、外部協力機関や卒業生、本校生徒が連携・協働しながら学べるカリキュラムを構築することを目的としている。

イ 福岡ファッションインキューバータ構築に向けた取組

「商品企画」「縫製」「経営」「販売」の4つの分野について、学校では習得が困難な、より高度で実践的な技能の習得及び各

分野で活躍するために必要となる資質や能力等に関する情報提供を担う、福岡ファッションインキューバータの構想について協議を重ねた。また、福岡ファッションインキューバータを構成する団体となりうる専門学校や社会福祉団体、寺社等との連携を図ることができた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

ア 「服飾手芸」3年

6月の文化祭の際に販売するために、刺繍を施したICカードケースをグループ毎（6班）に製作した。今後の商品の企画・販売実習を見据えて、各グループでターゲットを設定し、デザインを考えた。

製作した商品は、完売することができた。また、購入していただいた方に購入の決めてや改善点等についての簡単なアンケート調査を実施し、自分たちが設定したコンセプトやターゲットが適切であったかどうか等について、「ファッションデザイン」の時間に話し合いを行った。

イ 「ファッションデザイン」3年

本校では以前から3年次の「ファッションデザイン」（8単位）で「商品企画」と称して、生徒に商品の企画・製作を行わせ、文化祭の際に校内で販売実習を実施していたが、その多くが袋ものやアクセサリーなどの小物類であった。昨年度は衣服を中心に製作をし、試験的にECサイトによる販売を実施したが思うように販売数を伸ばすことができなかった。

昨年度の反省を踏まえて、教育ソリューションの研究協議会と株式会社 BENLY に協力依頼し、商品開発に関する特別授業を実施し、商品の企画・縫製を行い、博多阪急で実施した作品展で販売を行った。また、EC サイトによる販売も継続して実施している。 (<https://connect-store.online>)

ウ 「ファッション造形」 2年

デザインしたものを形にして世に送り出すために必要な技術と高めるために、以下のような特別授業を今年度、新たに実施した。

(ア) ドレーピングの基礎講座：立体裁断の手法を用いて、衿（ショールカラー、フラットカラー）のパターンメイキングについての実習

(イ) 平図・縫製仕様書の基礎講座：ビジネスの現場で必要とされる、平図や縫製仕様書の描き方について実習

③地域との協働による探求的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させた教科横断的な学習とする取組について

ア 「コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ」 1～3年

ファッションに関連する教材を活用した授業を実施している。また、1年と2年は、それぞれイングリッシュキャンプを実施した。1年では調理室でCooking Activityを実施したり、世界の国々のファッションについてのプレゼンテーションをおこなったりした。2年では、海外研修に向けて日常会話のアクティビティ等を実施した。

イ 「生物基礎」と「家庭」

本校では長年色彩検定に取り組んでおり、全員受検している。3級の内容に「目のしくみ」があるが、「生物基礎」の時間に豚の眼の解剖を実施しており、眼の構造について、知識だけでなく実際に確認する場を設けている。

ウ スーパー黒門塾での取組 「マーケティング×数学」

本校の普通科には各学年に一クラスずつ特進クラスを設置しているが、このクラスを対象に希望者を募り、コンソーシアムの構成メンバーである（一社法）進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問 西田 将浩 氏の指導の下、週に一回放課後にスーパー黒門塾を開設している。

この中で、ファッションデザイン科の生徒が商品の企画についてプレゼンテーションし、学習を深めた。

エ なのみ工芸

この施設では、長年さおり織の生地を織り、ポーチや十二支の飾り等に加工して販売をしている。この施設の近くに、猫の島として観光名所になっている相島という島があるが、ここでさおり織の生地で作った猫の顔型のコースターを販売したところ好評で、生産が間に合わないため、本校の生徒に縫製業務を協力してくれないかとの依頼があった。今年度は、依頼があったのが年度の途中だったこともあり実現できなかったが、次年度以降、カリキュラムに組み込み協力していきたい。

また、今後、さおり織を使用した商品開発も視野に入れて研究を進めていく。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

ア 地域の産業界と典型・協働した商品開発

イ オリジナルブランドによる商品開発及び販売

ウ 地域の産業界と連携・協働したファッションイベントへの参画

⑤成果の普及方法・実績について

ア 12月4日(水) 「ミライフフォーラム 2020 ソーシャルソリューションクロス」

カンファレンス「キャリア教育を活用した学校の魅力づくり」にて本校の実践内容を矢ヶ崎校長と授業担当者により発表

イ 12月13日(金) Shopify Meetup FUKUAKA での展示

世界的ECサイトのプラットフォームであるShopifyのセミナーを本校で実施した際に、会場に生徒が企画・製作した商品を展示し、来場者の声を直接聞くことができた。

ウ 2月23日(日)24日(月・祝) 博多阪急作品展

今年度で5回目となる作品展であるが、会場内で製作した商品の販売等を行うにあたり、生徒が直接実施施設の担当者と打ち合わせを行い、作品展示、商品販売、ファッションショー、お客様との刺し子製作ワークショップを行った。

エ スマホ向けサービス(すまっぼん!)株式会社 イーハイブ

店舗情報やSNS等を一元化してお客様に提供できる、ファン化ツールとして2015年よりサービスを開始したもので、個人からチェーン店、官公庁まで幅広く導入されている。アクセス数を注視しながら、今後も広報活動を充実させ、さらに活用できるようにしたい。

オ Instagramu による発信

生徒の発案により、SNSを活用した情報発信が効果的と考え、令和元年12月にアカウントを取得し準備を開始した。今後は、フォロワー数を確認しながら、増加に向け取り組んでいきたい。

(3) 研究開発の実施体制について

○校内体制

課題項目	事業担当責任者
運営指導委員会の運営	矢ヶ崎裕和(校長) 高木 浩信(教頭)
コンソーシアムの組織化・運営	高木 浩信(教頭) 西嶋 祐子(学科主任)
インキュベータの創設・運用	矢ヶ崎裕和(校長) 高木 浩信(教頭) 西嶋 祐子(学科主任)
研究推進委員会の運営	西嶋 祐子(学科主任)
カリキュラム開発・検証と改善及び実施	福原 操織(家庭科教諭) 江口 馨一(教務主任)
ファッション業種適性評価法開発	西嶋 祐子(学科主任) 福原 操織(家庭科教諭)
イベント企画・運営実習	下山 清美(家庭科教諭)
商品企画実習	江口 潤(家庭科教諭)
商品販売実習	安永 久子(家庭科教諭)

○カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・本事業において育成すべき人物像の共有と学習内容の検証
(商品企画、縫製、経営、販売の4分野で実施している外部講師活用授業や校外実習等の過不足やバランスについて等)
- ・教科横断的取組の提案(数学を用いてのマーケティング学習)
- ・インキュベータ構想の提案及び協議

8 目標の進捗状況, 成果, 評価

(1) ファッション業界を担う人材の育成について

目標の達成に向け、本校の現状について分析した。本校の多くは大学又は専門学校に進学する傾向にあるが、一部、就職する生徒は商品販売が多い。また、進学先を卒業したのちに、ファッションに関わ

る専門的分野に進まないケースも多くみられる。アンケート調査により、この原因として専門的就職先をイメージできないこと等が挙げられたことから、これを課題として解決するための役割をインキュベータ機能に含めることとした。

さらに、地域への関心や貢献意識に低い傾向が見られたことから、本事業により改善すべき課題として、評価指標に用いる。

(2) カリキュラムの構築について

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業により構築されたカリキュラムを基本とし、目標達成に向け更に高度化・実践化した。具体的には、民間企業とともに、商品企画に関する授業を開発しての実践や数学とマーケティングを関係付けた授業の構築等、より実践的なカリキュラムの構築がなされている。

(3) 福岡ファッションインキュベータ構想について

各会議において、専門的な知見から福岡ファッションインキュベータが担う役割や構成団体等に関する協議を実施してきた。また、地域の寺社や社会福祉団体との協力体制の構築や、県の重要文化財を利用した県行政との連携構想等、来年度の構築に向け具体的な動きを行うことができた。

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 職員の専門性の向上

今年度は、多くの外部講師を招聘し、生徒に向けて授業を実施した。教員では伝えきれない専門的な講義内容や実習等により生徒の知識や技能を向上させ、十分な効果を上げることができた。今後は、事業終了後の自走を見据えて、職員が研修を行い、継続して同等の効果を上げることができるようしていく必要がある。

(2) 専門性を高めるカリキュラムの構築

令和3年度より3年次のカリキュラムが変更になり、「ファッションデザイン」の2単位分が「美術Ⅱ」との選択履修となる。「美術Ⅱ」の内容を専門科目にどう関連付けていくかということと、現在全員同じ単位数で学んでいる「ファッションデザイン」の内容が、一部選択制になるため、内容の取り扱いについても早急に検討する必要がある。

(3) 福岡ファッションインキュベータの構築

令和3年の「福岡ファッションインキュベータ」設立に向けて、構想を具体化するため、さらに協力団体を拡大するとともに、事業終了後も継続できる仕組みづくりを進めていく必要がある。

(4) 生徒の意識改革及び評価

アンケートの結果から地域への貢献意識が低いということが分かった。ファッションショーや作品展を行うことが、広報活動に一環となるだけでなく、実施施設への集客を図り、福岡の街を活性化しているということや、誰かの「困った」を解消するという視点での商品の企画・製作が、地域課題の解決につながっているということを生徒達に十分に理解させていく必要がある。

(5) 資格取得による生徒の技能向上

資格取得については、色彩検定2級の合格率が83.3%で目標の85%には僅かに届かなかった。授業担当者が変わっても授業の質を維持できるように、教材の開発や共有を進めていく。

【担当者】

担当課	福岡県教育庁教育振興部高校教育課	TEL	092-643-3905
氏名	大串 知子	FAX	092-643-3906
職名	指導主事	e-mail	oogushi-t4430@pref.fukuoka.ed.jp

